



# 「第九」に寄せて

(株) エフ設計コンサルタント

天野 大 (AMANO HIROSHI)

建設部門, 上下水道部門, 環境部門

総合技術監理部門

## 1. 縁

「第九」とは、ベートーヴェンの交響曲第九番合唱付のことである。

### (1) ハイリーゲンシュタット

21歳の夏、ヨーロッパを旅する。リュックサックを背負っての一人旅。ウィーンへも行く。思い出として残っているのは・・・

- ① ドナウ川で泳いだこと
- ② 教会に併設されたユースホステルの朝食で出されたパンが美味しかったこと
- ③ ハンガリーから、なけなしの金でやって来た貧乏医学生の話深夜まで聴いたこと
- ④ シュタットバーン（都市鉄道）で、バイオリンを抱えた日本人少年を見たこと
- ⑤ お上りさんと一緒に、ドイツ語解説付きの観光バスで市内見学をしたこと
- ⑥ ベートーヴェンゆかりの地、ハイリーゲンシュタットを訪れたこと

残念ながら、ベートーヴェン終焉の地に、なぜ行ったのか？そこで何をしたのかは、皆目記憶にない。

### (2) 映画「俺たちの交響楽」

卒論も無事通った22歳の冬。卒業式までの日々、映画を梯子する。そのなかのひとつに山田洋次原案・朝間義隆監督の「俺たちの交響楽」があった。町のアマチュア合唱団が初めて「第九」を歌う話だ。その合唱団員のひとりの自己紹介「私は、部員9人で甲子園に行った四国の池田高校出身です」のセリフを覚えている。合唱の訓練に、腹筋まで鍛えるのが印象に残った。

### (3) 「鳴門第九を歌う会」など

帰郷して7年目。鳴門市文化会館の「こけら落とし」として、第九演奏会の開催が決まる。その合唱団員募集に、手を挙げる。以来、だいたい毎年、演台に立って歌ってきた。そして、本邦初演の地が、旧板東町にあったドイツ人俘虜収容所だと知る。その縁だ。

やがて、合唱団員を全国から募集することになる。やって来る、合唱団員の質の高さに驚く。それとともに、様々な経歴の持ち主と会うことができた。日本が誇る航空機YS-11の設計者のおひとりと会うことができたのは、幸せなことであった。

現在の鳴門第九合唱の指導者で、わが師と仰ぐ、頃安利秀先生。ドイツにおいでた時に、ベルリンの壁崩壊を経験される。そのあと開催されたレナード・バーンスタイン指揮の第九演奏会では、歌詞の Freude (歓び) を Freiheit (自由) にかえて歌ったそうだ。EU (ヨーロッパ連合) の歌としても有名だ。カント, シラー, ベートーヴェンに繋がる永遠平和への思い。そんな深い想いがこの「第九」にはある。

県庁卒業後は、大阪城ホールでの「一万人の第九」演奏会にも参加する。「一万人なんて、会場がただ馬鹿でかいだけだろう」と思っていた。しかし、いざ、あのホールで歌うと、第九のイメージも大きく変わる。これは体験してみないことにはわからない。ぜひ、機会があれば、挑戦してみていただきたい。

#### (4) 技術士全国大会 in 徳島

2020 年は、ベートーヴェン生誕 250 周年。様々な行事が企画された。しかし、コロナ禍で、そのほとんどがなくなった。その前年、2019 年 10 月、技術士全国大会 (四国・徳島) が開催される。交流行事の一環として、第九演奏会が催された。その晴れの舞台に立つことができた。今から思えば、奇跡のような出来事であった。



## 2. An die Freude (歓びに寄せて)

長年歌ってくると、やはり歌詞の深いところが知りたくなる。

第九の歌詞は、シラーの元詩をベートーヴェンが大胆に編纂したものである。

個人的には、次の歌詞が好きだ。

Deine Zauber binden wieder,

あなたの魔法が再び結び合わせる

Was die Mode streng geteilt

時流が強く切り離したものを

ドイツ語に堪能な明石の友人：藤井義正氏は、日本人が解釈して歌っているものと原義



### (3) カント

有名なドイツの哲学者。生涯プロシアから出ず、毎日、判で押したような規則正しい生活を送ったことは周知のこと。ただ一度、いつもの散歩に遅れたのは、ルソーの「エミール」を読んでいたからとは、カントならではかと。

高校時代、「純粹理性批判」「実践理性批判」「判断力批判」「永遠平和のために」を読む。ただただ流しただけというのほかない。当然、デカルトやパスカル、西田幾多郎、三木清もかじっている。なぜ、この流れになったか？

中学1年生の時に、自問したことに端を発する。

① 自分とは何か？ ② なぜ生きるのか？ ③ 人間とは何か？等々

その答えを求めての道上だ。疑問に対する追及は、我ながら粘り。哲学というより、生きること、生の根幹に関することへの興味なんだろう。

カントの残した言葉「わが上なる星繁き空と、わが内なる道徳律」が深く滲みる。なぜか受験生時代は、この言葉が支えとなった。

以上から、ベートーヴェンを含む4人に共通する点は何かと考えてみた。なんと、生涯、妻をめぐってないのだ。縁がなかったと言えば、それまでだが、とても魅力的な人物なだけに、残念だ。

そして、ベートーヴェンの有名な言葉。Durch Leiden Freude (苦悩を通しての歓喜) 人生の幸不幸は、他人が判断するものではない。幸せな人生だったですか？とは、問えない。しかし、彼らが充実した人生を送った、幸せだったと思いたい。

## 4. 「第九」に寄せて

ベートーヴェン、そして「第九」について、様々な知見をお持ちの読者諸氏からの助言を賜りたい。また、新たな情報をお教えいただくと有り難い。

現在、私の課題は、次のとおり。

① 体力づくり：第九を歌うには、体力が不可欠。まずは、それなりの体力を維持したい。

② 歌詞の意図するところを知ること：

ハイデカーの著作群から、ヘルダーリンを介してベートーヴェンを体験したい。

③ 友人の輪を広げること：「第九」を通して、これからも様々な方にお会いしたい。

コロナ禍の終息の兆しも見えてきた。2022年5月1日(日)には、鳴門で、久方ぶりに第九演奏会が開催される。そのため、11月から歌唱練習に入る。腹筋を鍛えるほどではないが、発声練習も始まる。心して、臨みたい。

以上

